

[016]史淵表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/2341022>

出版情報 : 史淵. 16, 1937-07-05. Faculty of Law and Letters of the Kyushu Imperial University
バージョン :
権利関係 :

史淵著者別索引

自第一卷
至第十六卷

九州帝國大學法文學部内

九州史學會

了

青木 義憲

三河一向一揆の研究

輯 頁

九・一〇七

有光 保茂

博多商人宗金とその家系

一六・二〇一

イ

井

伊奈 健次

中世に於ける社寺金融の特別低利率について

本邦佛寺の高利貸徴利認容の根據について

三・一六五

一一・九九

井上 以智爲

廬山文化の黎明

廬山文化と慧遠

八・五三

九・一

井邊 一家

章學誠の方志學

五・二七

一

才

大村作次郎

一九〇七年に於ける英露協商の成立の研究(一・二)

三・一三三

最近帝國主義勃興の經濟的原因に就いて

六・六七

セラエチ事件に對するセルピヤ政府の責任(一・二)

四・五六

一九一二年の「ハルデーン派遣」を主とする英獨海軍關係(一・二・三)

七・五三

野平吉

八・一

グレイ内閣の選舉法改正に於ける上院議員任命問題

一一・七五

鏡山 猛

一二・二三

元寇恩賞地の配分に就いて

一三・一七

日韓關係雜攷

一五・一六六

太宰府藏司の礎石と正倉院

一六・一一五

日本書紀に現れたる百濟王曆に就いて

一四・一

太宰府の遺蹟と條坊(一)

一五・八一

力

鏡山 猛

元寇恩賞地の配分に就いて

六・一二八

日韓關係雜攷

一三・一三一

太宰府藏司の礎石と正倉院

一四・一

日本書紀に現れたる百濟王曆に就いて

一五・八一

太宰府の遺蹟と條坊(一)

一六・一一五

河野 福夫

水戸學と佛敎

四・六八

コ

小林 榮三郎

ビスマルクと奥匈國內の獨逸族

再保險條約不更新とホルシユタインの心境

第一モロッコ問題とフォン・ホルシユタイン

所謂ボイストの報復政策について

五・五一

八・九七

一四・六一

一六・一四九

サ

讚 井 鐵男

マツチーニと青年イタリヤ

一一・一四五

シ

重 松 俊章

支那古代の物價調節策に就いて

宋元時代の白雲宗門

唐宋時代の彌勒敎匪―附更生佛敎匪

唐宋時代の末尼敎と彌敎問題

一・七一

二・三九

三・六八

一一・八五

島 村 保

三

庄野眞澄
社會政策家としてのピスマルス

三・一四九

唐沙門法琳傳について

一四・三九

夕

竹岡勝也

ものあはれと出家—源氏物語の一考察

國學者としての増穂殘口の地位

近世復古主義の源流に就ての一考察

新井白石の古代觀と神道觀

世界史と國民史—滯歐所感の一節

浮世の成立(一・二)

二・五六
三・一〇四
七・八三
八・三一
一三・一九一

玉泉大梁

室町時代に於ける貨幣の流通狀態

一・五一

子

長壽吉

法皇レオ十三世論の一端

オリヴァ以後

ケレタロの罪の由來に就いて

シレジャ地領繼承の關係

二・一
三・一
五・一
六・三八

侯國政治訓諭の一考察
 生子信教に關するケルン評論
 オルシニ事變の前後
 新尙古主義と二州問題の言論
 一八七八年基督教社會黨の地位
 第二帝政末期六〇年代前期に於ける自由帝政の變革
 ビスマルクの岐路と運命
 ビスマルクと七五年危機

ツ

筑紫頼定

顯孝禪寺趾に就て

ナ

中山平次郎

九州に於ける銅鐸

長沼賢海

鐵砲の傳來に就いて

伊曾保物語繪卷

宗教的土一揆

元寇と神風

建武前後の神佛の信仰關係

七 一
 九 三五
 一〇 五五
 一一 六三
 一二 一
 一三 八九
 一五 一
 一六 一

二 九〇

一 四一

一 一

二 一五

三 三四

四 一

六 一

元寇と松浦黨

法華念佛兩宗の展開と唯一宗源神

松浦黨の發展及び其の黨的生活(上・中)

海外交通史上の壹岐

懷良親王の征西路考

神道に現はれたる他力念佛の影響

鐵砲の傳來と其の普及

二

西尾陽太郎

世阿彌の能樂論に於ける基調的思想

西本壯吉

先秦に於ける王道論の展開

七

日野開三郎

五代の沿徴に就いて

唐・河陽三城節度使考

五代藩鎮の擧絲絹と北宋朝の預買絹(一・二)

七・一一一

九・六五

一〇・一

一一・一五

一二・五五

一三・六三

一五・四五

一六・九三

一六・二七九

一二・二六九

一三・一

一四・九

一五・一〇一

一六・六二

ホ

本庄説治

三代世表考

一五・一三七

マ

益田健次

アウランジエ運動

七・一三三

モ

森住利直

北宋の便糶に就いて

南宋四川の對糶に就いて

三・一八八
一〇・一〇五

ヤ

安河内 博

若狭國太良莊の崩壞過程

一三・一五九

山内 晋 郷

安南史上の一政權としての土變

一一・一

山本 博

彌生式土器論と北九州(一・二)

四・九八

七

山本博、山本嘉藏
福岡縣成屋形の古墳に就いて

八

五・七四

二・七七